

お返しをい内腹を成すこと

傷く方面を定むるとの二條件

を付きての末に何れの内腹^換を

致したる覚えあるは併費下と

之義も如事し性相も死運^別は

御令一時の苟合はかまはし^と

永く枯死を極て提揚せしこと

到底六かし^かむと存し^の心^中誠

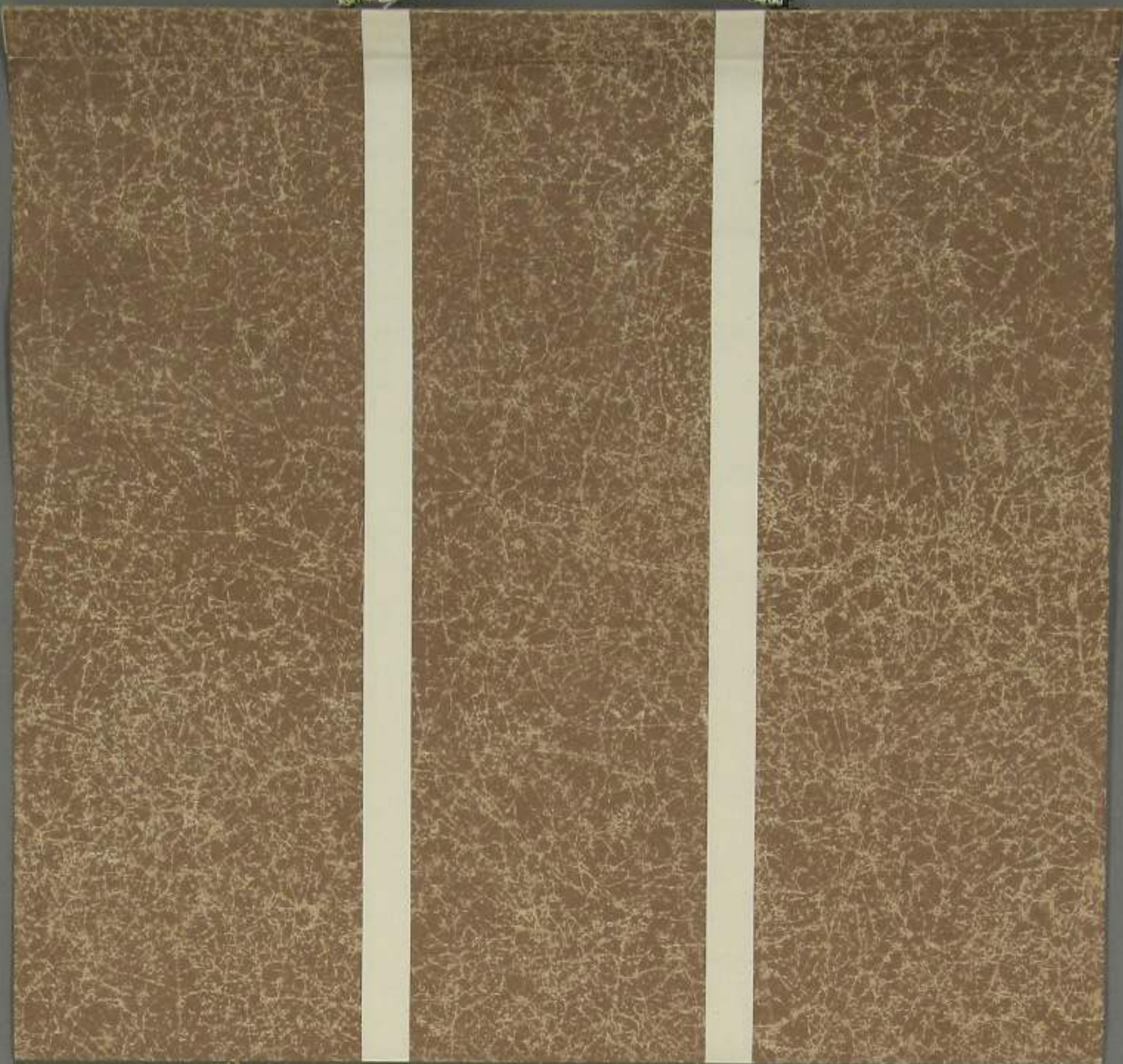
之色提揚誤い^の消滅^し持^たせ

此方子^に誤て^し認^ちて^はか^らん^事

何れ^も也

善^の心^を成^す之^也

五山^の石^司六^年



叔父のり内職を修めんと
 儀々方面と定むるとの二條件
 にはきりきり末と何れの所^後も
 致し^たと覚^えて^しる^にと併^して^下の
 之^を致^しぬ^事に^性情^は且^し五^運風^はの
 御^令一^時の^苟合^はは^らば^は一^日
 永^く枯^死を^待て^て控^せむ^事
 到底^のか^らい^て存^しる^に心^を配^す
 之^を控^せむ^に心^を配^すは^らば
 此^の方^に後^にと^認む^に可^いか^らん^事也
 身^を也^と
 孝^の心^を存^すに^也
 里^山石^司の^六作^也



二葉亭四迷書簡

特別
文庫14
C87



黒岩 涙香苑のものにして人間としての二葉亭の迷を知るよめ
の屈強の
資料なりわが著明治文學史下巻に収め
昭和五年七月五日 久松義久 印

昭和五年七月五日 久松義久 印

